

8/2(土) まい心! 倫理号まで。 4月に今年は何段か喜しくなるは皆以同心なせしめ
日々の努力を継続してこそ功の成るが為である。今迄の点と云う人がどうなるか

今週の

倫理

専心の今迄の点は右か左か

アホ一島に軍にてみせよう。

2022. 4. 2~4. 8

4月のテーマ | 一貫不怠

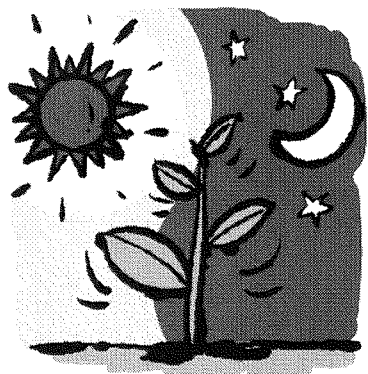
1275号

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所第二代理事長・丸山竹秋（一九二一—一九九九）のことばを掲載いたします。

スポーツ以外のことでも、ほとんどすべてにわたって稽古とか練習とかが、上達の基礎になるようだ。舞踊、書道、……将棋とか囲碁などは、時に空白状態をおくことも必要だそうであるが、これは頭脳の転回のためのもので、まるつきりそのことを放擲（ほうてき）してしまうと、実力は落ちてしまうという。やはり最低一日に一度くらいは、ある場面を思い起こすとかしてそのことにたいする関心を失わないようにする必要はあるらしい。

ある歌手は、練習にきびしく打ちこんでいる。六十歳を越えても、毎日毎日何時間も歌うという。練習をおこたると声の調子が悪くなるのだそうだ。一見はなやかなステージの裏には、たいへんな努力があるわけだ。まことにきびしい人生ではある。

さてそこで、練習や稽古の心がまえだが、やはり嫌々ながらやっている、身が入らない。時にはつらく、いやになることもあるだろう。しかし、こうしたときに、その嫌になった状態をそのまま受けて、いつかは必ずまた喜んで練習にはげめる時が来ると、心の奥底ではつきり念じていることだ。また時には、いくら稽古にはげんでもすこしも上達せず、いらいらすることもあ



「一日一回」が成功の秘訣

丸山竹秋

だろう。上達するどころか、やればやるほど腕の落ちるように感ぜられることもあると思う。コーチや教師からはこつびどく叱られるけれど、それでもだめだという時、苦しくてほうりだしたくなる。

だがそうしたとき、いわばスランプとでもいうか、混迷状態というか、その苦しい時に、じつはほんとうの力が磨かれたつのである。いくら練習をし、稽古をつんでもうまくいかないうところがあるからこそ、そこに進歩の種子がまかれつつあるのだと心得て、うまくいってもいかなくても、とにかく練習だ、稽古だと一貫不怠にはげむことだ。磨くとは、そうした苦しさの中に続けてやることをいう。

ところで、こうしたことは人生のすべてにあてはまる。学校の勉強でも、職場の仕事でも、毎日のことが試合であり、また練習でもあり、稽古でもある。ある品物も売れるのも試合であり、そして稽古にもなっている。ただスポーツなどちがって、試合と練習と判然と区別できないだけのことだ。ある場合は試合だと思つて後にひけないきびしさで向かうと、うまく運んだりする。

しかもいやになつたり、行きづまつたりした時は、前にのべたことが、そっくりそのまま人生にあてはまる。そこにこそ、そのことに強くなれるか、どうかの岐（わか）れ路があるのである。すべての場合、ほんとうの成功は失敗や困難のあとに生まれるのである。

『いかに乗りきるか』より